

公益社団法人 横浜市幼稚園協会発行  
 〒221-0055  
 横浜市神奈川区大野町1-25  
 横浜ポートサイドプレイス アネックス5F  
 電話 045 (534) 8708  
<http://www.kids-yokohama.or.jp>  
 編集 横浜市幼稚園協会広報部  
 発行者 木元 茂  
 印刷所 合資会社横浜大気堂

# 協会報 浜私幼

一般版

No.259

▼第22回父母セミナー



## 第22回 父母セミナー

開催日：平成26年10月2日(木)／場 所：横浜市教育会館

平成26年10月2日に横浜市教育会館において(公社)横浜市幼稚園協会と横浜市幼稚園父母の会連合会の共催により第22回父母セミナーが開催された。講師の渡辺久子先生の講演に506名の参加者で会場は満席となった。

開会に先立ち、木元 茂横浜市幼稚園協会会長は挨拶の中で、幼

稚園教育の重要性を参加者に伝え、自身の家庭での子どもの存在の大きさを話した。続いて杉本周子父母の会会長は横浜市幼稚園父母の会連合会の活動を紹介するとともに、「渡辺久子先生のお話から子育てのヒントや気づきを少しでもみつけていってほしい」と挨拶をした。

来賓の横浜市こども青少年局子ども支援部子育て支援課長の齋藤真美奈氏から横浜市が行っている子育て支援の報告を交えご挨拶をいただき、同幼保小連携担当課長の原南実子氏を紹介後、講演に入った。



横浜市幼稚園協会会長 木元 茂先生



来賓挨拶 齋藤真美奈氏



父母の会連合会会長 杉本周子さん



会場



司会 父母の会役員 齋藤広子さん



講師紹介 父母の会役員 木村久美子さん

父母セミナー 講演要旨

# 子どものこころの世界

〜二度ともどらぬ今を生きる〜

講師



渡辺久子先生



## 子どもと共に今を生きる

私もかつては育児に奮闘している母でした。しかし、そんな時期はあっという間に過ぎていきます。人生とは、二度と戻らない今、今日を生きるということです。

私の尊敬するある女性登山家は、危険な山にいる時にでもとても落ち着いて穏やかでいられるそうですが、それは山にいる自分が好きだからだと言っています。また世界的に有名なオーストリアの女性は、自分が大好きなことを本気でやっている時は自分の中の力

が一番うまく発揮出来る時であると言っています。実は、こうした「人は好きなことをするのがよい」というのは、誰でもすでに知っていることです。

しかし、私たちは戦後の工業化社会の中で感性をゆがめられ、好きなことするのを忘れてしまいました。私は戦後の復興期のベビーブームの中で育ちましたが、どういうわけか小さい時に好きなことをたくさんして遊んだ楽しい体験がいきいきと残っていて、それに助けられて、子育ても仕事から一度も離れずにし、お産のとき以外ずっと共働きで働いて、みんなに

超人的と言われるほどでした。

そもそも、昔はみんな共働きでした。そして女性が果たす役割は人類の歴史の中で非常に大きかったのです。私たちは母性の中で豊かな文化を発展させて来ました。産業革命以降男女の差別が出て来ましたが、男女や年齢など別にして人間が生きるとはどういうことかをもう一度考え直してみるべきです。

日本は、戦後私たちの父母が自分たちのことを顧みることもなく、私たち子どもの幸せを考えてくれました。そのひたむきな瞳の輝きに守られながら、外に広がる真っ青な空のもと、ひたすら遊んだ体験が残っています。これが今の日本人の原点だと思いますが、時代の中でこれがだんだん歪められてしまいました。

「こどものこころの世界～2度ともどらぬ今をともに生きる～」という今日のテーマは、文学的な話ではなく、最先端の赤ちゃんの心の発達の研究者が断言していることをかみ砕いて皆さんにお伝えし、何かのヒントにさせていただこうというものです。

ところで、何はともあれ「わんぱく小僧」を育てなければ良い人間を育てることはできない、ということはお存じのことと思います。有名なフランスの思想家ルソーが、産業革命によって人々の生活がどんどん効率主義、お金主義、競争主義になり、育児までがそれに汚染されていく姿を見て、これを言いました。『エミール』という書の中で、「小賢い大人の睨む目や口で子どもたちの自然で豊かな発達を潰してはいけません」と言っています。ここで言うことは、遊びと甘えがいかにか子どもたちの身体を鍛え、心を鍛え、脳を発達させるかということ

です。

子どもの今とことというのは、二度ともどらないのです。

## 胎児期の脳の発達

脳は胎児期の受精卵から発達します。胎児期に脳は急激に大きくなるので、この時期がとても大事で、胎教という言葉は科学的に証明されています。

お父さんがお母さんをけなす、どやすことにより赤ちゃんが成長しないケースに出会ったこともあります。外面がよいが家では切れやすい、いわゆるDVの男に引かからない人を見る深い目を持った女性をやしなわなければならなりません。そしてDVをひどくしないために嫌なものは嫌だと言う。例えば、「誰のおかげで飯を食ってるんだ!」と言われたら日本の女性は委縮して何も言えなくなって自分の価値を下げてしまいますが、フィンランドの女性は「私のおかげよ!」とはっきり言うことができるのです。女性が卑屈にならないことが大事なのです。女性が卑屈になると子どもが卑屈になります。子どもが卑屈になるとちょっと日本の未来がしぼんじょうのです。

胎児の脳は全身の身体感覚の刺激で大きくなるし、お臍を通じてお母さんの養分でも大きくなっています。活動も記憶も胎内から始まっているのです。胎内ですべて聞いています。

## 鈍感に育てる

何事にも動じないから鈍感な子がいい。出来るだけ鈍感に育てて下さい。その方が絶対にいい人

生になります。そのために自然とのふれあいを胎内から始めましょう。胎内では羊水が水分であり海のようなものですから、もうすでにここから自然とのふれあいは始まっています。赤ちゃんが蹴っ飛ばした分だけフワッと返してきます。これはワクワクする世界です。脳の研究者フロイトは脳の発達はワクワクすると100%フルに発達するという快樂原則だと言いついて切っています。つまり生まれおちた世界が子どもにとって安心できる羊水と同じであれば、胎内と同じくらいの勢いで脳の発達がうまくいくはずで

## 産後の鬱

私の子ども時代にはほとんどありませんでしたが、今、産後の鬱が10人に1人はあると言われています。きちきちして完璧を求めているのが初期症状です。しかし、赤ちゃんを産み、育てると言うことは、人間という生き物の野生の世界に入っていくことで原始的なものにゆさぶられ、自然の自分に戻っていくということです。また、母親になるということは、無力な生の人間として子どもと共に不安を抱くことです。だから、不安になるということは健康なことなのです。むしろ負の感情を抱えていけることが人間の成熟です。

## ヘイトスピーチ

ところが、日本の商業主義は完璧な真っ白な人がいい人で、少しでも汚点のある人を真っ黒にしています。だから日本のヘイトスピーチは凄いのです。若者からお年寄りまで、顔を隠して人を攻

撃するという心理がかなり横行しています。昔から「いびる」という言葉がありますが、いびっている側は例外なく、心の芯が貧しく、未熟で寂しくて、疎外感があってhappyじゃないのです。色んな文化の動機の中には苦しみや悲しみがあって、それがはじけて素晴らしい人間文化が共有できるようになったので、大事なものとして負の感情と向き合えばいいのに、抱えきれずヘイトスピーチになってしまうのです。人間として生きる時の負の感情を抱えていけることが人間の成熟なのです。

### カイロスを生きた子どもたち

子どもたちにとって病院に勤めて働いている人たちは、どの人も地位も位も関係なくただの人です。入院している子どもたちは、心根のいい人に心を開きます。だから、鋭いアンテナをもっている子どもの心の世界をもう一度振り返ってみる必要があります。子どもは、今ここで楽しいか、楽しくないかで勝負しています。この主観的な時間を古代のギリシャ人たちは、カイロスとよびました。主観の時間なので、その人にしかわからない時間なのです。皆さんの主観でどう使おうと自由な時間です。子どもはまさにカイロスを生きているので母親がhappyなら子どももhappyなのです。カイロスの時間に対して、共同作業する時間(共有時間)をクロノスといいます。いずれにしろ、子どもたちは私たちを芯の心根で見えています。特に幼い子ども、そして病気の人、障害を持ってい

る人、社会の底辺にいる人たちもそうです。

### 大人の本質を見抜く子ども

「子供の権利条約」の父、ヤヌシュ・コルチャック先生が、「愛されること、尊重されること、よい環境で育つこと、今を生きること、自分らしく生きること」と言っています。この言葉は日本中の人たちが知っています。特に教育を受けたお母さんたちは知っているはずですが、言葉を知っていることと内臓感覚的に腹でわかっているということとは違います。そして子どもはそれを見抜いています。特に心身症になった子どもたちはアンテナが鋭くて優秀です。

コルチャック先生が「間違い失敗する権利がある」と書いています。人類は失敗が成功のもとだったのです。ノーベル賞も失敗から生まれました。しかし、子どもの失敗を大人が笑い、委縮して、試行錯誤できない子になってしまった例もあります。

子どもは、生後7カ月でプライドを持ち、早い子は、生後4カ月くらいで無視されると嫌な顔をします。子どもはものを言わなくても、大人の本質を見抜いています。

日本には教育を受ける権利があります。ただし教育は塾に行くことではありません。一人ひとり子どもの学び方があります。それを考えられるお父さん、お母さんになってください。なぜなら今の日本は、子どもたちにとって自分に合わないことが拒否できない、コンクリートだらけの世界だからです。

### 思春期とライフサイクル

思春期は乳児期の次に来る大事な脳の発達期です。乳児期に厳しすぎて失敗したと思っていてもやり直しがききます。人間はいつでもやり直しがきくのです。

脳の急激な発達をする乳児期の±2歳は、すごくキレ、暴れます。暴れた子の方がいいのです。だから、心身症の子の治療を始めた時に、2歳前後でどれぐらいかんしゃくを起し、駄々をこねてNOと言えたかを聞き、それがあれば大丈夫、すぐに良くなると言えます。無かったら、母親がどうだったかを聞きます。その場合、お母さん自身がやんちゃな自分と出会ってないことが多いのです。

人間の子どもの期は9歳くらいで終わります。人間の脳は胎児期から乳幼児期にグンと成長し、7、8、9歳で落ち着きます。そして思春期12歳±2歳。有能なお母さんは子どもが思春期に入る10歳くらいの時に働きたいと思うのですが、この時期は、子どもは年齢から10を引き算し、大人の0歳児と一緒にいます。産まれたての赤ちゃんと同じように心の中で誰かが必ず寄り添ってなくてはなりません。

### 子どもの前ではただのお母さん

どんなに優秀な児童精神科医、心理学者であっても、患者と接している時はビジネスのクロノスの世界にいます。しかし、我が子の母になるということは、全く新しい体験で、カイロスの世界を生きるということです。今日のテーマの「2度ともどらぬ今を生きる」

はカイロスの世界を生きるということ。肩書きとか背後の勉強は邪魔をするゴミ情報かもしれません。母になるというのは、親バカでいいのです。客観的にならなくていい、理性ではないのです。理性的にやったら一大事です。私の保育学でわが子を育てたら間違いなく心身症になります。子どもの前ではただのお母さんでなくてはならないのです。

我が子が保育園に行って昼寝をしていた時、テレビに出ていた私を見つけた保育士がわざわざ子どもを起してテレビに出ている私を見せましたが、それは必要のないことでした。子どものカイロスをつぶして、大人の世界を子どもに知らせなくていいのです。子どもは子どもの世界をいきているのだから、親の職業は関係ないのです。

そして私は、我が子が焼きもちをやくくらいどの子にもみんな平等に接してきました。我が子と向き合う時は一人の人間として向き合います。たまたま私の子宮を通ってきただけだから。

## 親の役割

イギリスの詩人であるワーズワースが作った虹という詩があります。

「空の虹を見ると私の胸は高鳴る。子どもの時もそうだった。大人になった今もそう。年老いてもそうでありたい。でなければ死を。子どもは大人の親だ。」

子どもの頃のワクワク感=カイロスこそその子だけの2つとない命としての自己実現(大仕事)だと言っています。親の役割はまず子どもの命、心を守りきることです。そして、子どもが望んでいるのは生き生きと共に

生きてくれることです。子どもは、色んなものに挑戦して自然の中で生きているのです。

## 羊水に負けていませんか?

胎児の世界を振り返ってみると、そこには、24時間1秒たりとも手抜きしない羊水があります。羊水はお母さんのにおいがします。ぬくもりがします。声が聞こえます。子どもの脳の中には身体記憶がどんどん溜まっていきます。だから羊水は母性であると思います。羊水は子宮の壁(父性)に守られているから、ありのままです。

あなたは羊水に負けていませんか? 私は24時間子どもといることができないから負けています。だから色んな人に助けをもらいながら子育てをします。私自身、産休後、子どもを母屋に預けるつもりで、保育園に預け、夕方は離れの自分たちのもとに戻ってくるつもりで引き取りました。そして母屋に対する信頼の証として、子どもに対する全責任は自分がとるつもりでいました。これは、子どもが大きくなるまで貫きました。

## 子どもに夢を

1歳半を過ぎると、子どもは自分で生きることを知るようになるので、子どもに大人は夢を与えなければならぬのです。わざわざサンタクロースはいないと言ってはいけません。自分からいないと気づいたら失敗したと思えばいいのです。子どもは子どもの夢があります。その自己感が、ワクワクするカ

イロスから作られた心の芯であり、それは層をなして作られていくものなのです。それが人格の芯となっていきます。

## 秒単位で生きる子ども

人は誕生直後から主体的に秒単位で生きています。だから、子どもの一瞬は大人の10倍濃いものです。つまり0.1秒単位で子どもたちは、大人を見抜いています。お母さんが落ち込んでいたり、怯えていたりしたら、子どもは心を閉ざし発達がしにくくなります。例えば仮設住宅を転々としているお母さんのもとに生まれた赤ちゃんは、お母さんが緊張する瞬間が長すぎて、残念なことに成長が遅かったのです。でも、お母さんが真心こめて子どもと遊んで向き合ったら一カ月で変わりました。お母さんがhappyなら子どもも同じなのです。

## 対人関係のオーケストラに同調

赤ちゃんは、お腹の中にいるころからお母さんにアンテナをはっています。

それだけではなく、お母さんを取りまく人間関係にもアンテナをはっていることがわかってきたのです。赤ちゃんは、お母さんにつながっている人とのやりとりの音色を、オーケストラを聴くように刻々と聞いているということがわかったのです。ですから、お母さんが周りの人との良い関係を作り出していくことは子育てをするうえで、非常に大事なことなのです。

## まず赤ちゃんを尊重しよう

専門用語で間主観性といいます。人間の赤ちゃんは、主観と主観、つまり心と心の間の関係を見抜く力を生まれ落ちたとき、すでに脳の中に持っているのです。だから、赤ちゃんは相手の意図と雰囲気を見抜きます。お母さんがにっこりしていれば、自分の存在がお母さんをしあわせにしているように思い、お母さんがシラーツとしていけば、自分の存在がお母さんをシラーツとさせているように思うわけです。

お母さんが周りのいろいろな人と話し合ったりふれあったりしながら、子どもをかわいがっていき、そういうお母さんを中心にした人間関係の中で子どもは育っていきます。それも受け身ではなく、積極的に身を乗り出すようにしてそこからいろいろなことを学びま

す。赤ちゃんというものはそういう生き物なのです。

## AKUは子どもの発達力

人間の赤ちゃんは泣き喚く、なんでもいじくりまわす、そして汚す。それが当たり前なのです。人間の赤ちゃんは好奇心のかたまりです。そうやってしなやかな賢い脳を発達させています。そのように人間の赤ちゃんは、危ない、汚い、うるさいもの。ローマ字で危ないはA、汚いはK、うるさいはU、これを並べるとAKU(アク)になります。人間の赤ちゃんという生き物は、きれい好きなお母さんにとって、残念ながら危ない、汚い、うるさい、をやってくれる存在なのです。けれども、“今は赤ちゃんの笑顔が大事、大人が自分の快適さを今はがまんしてもいいわ”という覚悟をすると、赤

ちゃんとのつきあいが楽しいものになります。

## かぐや姫と桃太郎

「かぐや姫」と「桃太郎」どちらが好きですか。

「かぐや姫」は親子密着の密室育児で親の思い通りに育ったものの、最後には月の世界に行ってしまう。それに、言い寄る男に無理難題を言いつける。

対して、「桃太郎」は、うそ偽りのない親子関係で育った、ありのままの自分を持った子どもです。おばあさんに作ってもらったキビ団子を他の者に分け与え、人徳を得て、知恵を使い、鬼に立ち向かう勇気をもっています。

どちらの子育てが良いと思いますか。

## 子育て教育相談室

保護者の皆様

横浜市幼稚園協会の子育て教育相談室では電話で皆様のご相談をお受けしています。

こんな時どうすればいいの？ 心配した方がいいことなのかな？

子どもの癖が気になったとき、叱り方、ほめ方、お友だち関係等に悩んだとき、など毎日の子どもとの暮らしの中で、心配になったり、気になったりしたときに、お気軽にお電話下さい。

お子様が幼稚園にいてお留守の時間帯にゆっくりお話しをお伺いすることができます。

子育て経験のある女性の臨床心理士が、あなたと一緒に考えます。

食が細い、寝付きが悪い、言うことをきかない、幼稚園に行きたがらない、爪かみ指しゃぶり、おねしょ等々、つい怒ってしまうけどこれでいいのかな～話してみるだけでも何かヒントが見つかるかもしれませんね。

お電話お待ちしております。

【相談日】

毎週火曜日・金曜日（お盆、年末年始、祝祭日を除く）

【受付時間】

10時～12時 13時～15時



相談専用ダイヤル

**045-534-8837**

公益社団法人 横浜市幼稚園協会

<http://www.kids-yokohama.or.jp>

TEL 045-534-8708

## 編集後記

今回、渡辺久子先生のお話を伺って、最新の医学・脳科学から知る胎内の環境や乳児期の認知能力など、改めてその大切さに気づきました。日本は戦後社会の中で何を失ってしまったのか。人間が一生をどう生きるかという価値観でしょうか。かつて江戸時代は子ども達にとってパラダイスのような環境であったといわれます。伝統的子育てに学ぶべき点は多いのかもしれませんが。新制度への対応に頭を悩ませる日々ですが、機能の充実だけでなく子どもの心を育める幼稚園でありたいと思います。（広報部 志田 元）